

令和6年度 事業報告書

〔 自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日 〕

本年度も公益目的支出計画に関する諸事業の実施のほか、適宜、必要な安全対策、施設整備等を行った。

施設利用者の利便性向上を目的とし、コース2000に付帯するメインスタンドなど3か所の観客スタンドの全面塗装工事やライブ配信をストレスなく視聴できるようネット環境の再構築などを積極的に行うとともに、旧事務所など建設から30年以上が経過し老朽化が目立つ施設の建て替え工事を行い、当サーキットのイメージアップを図った。

筑波サーキット会員のみならず、迅速にサーキット情報を発信するためSNSの積極的な活用とレースイベントのライブ配信回数を増やし、モータースポーツの迫力や醍醐味を提供するなど、ファン獲得に努めた。

筑波ライセンスのコース2000会員数は、平成27年度から毎年増加を続けてきたが、今年度は、新規取得数に対し既存会員の更新数の減少が上回ったため、総会員数は、10年ぶりにマイナスに転じたが、関連する会員によるスポーツ走行数は、2輪走行の増加により3年ぶりに増加に転じるとともに、売り上げ増に寄与した。

主催レース大会の参加台数は減少したが、観客入場者数は増加した。長期におよぶ物価上昇やガソリン価格の高止まりなど、取り巻く環境が厳しい中、当財団運営の基盤であるコース貸し出し収入は微増を維持した。

各実施事業内容は以下のとおりである。

1. 公益目的支出計画に関する事業

(1) オートスポーツ愛好者に筑波サーキットの走行を提供する事業

多くのオートスポーツ愛好者に筑波サーキットでの走行を楽しんでいただくことにより、オートスポーツの普及を図るため次の事業を行った。

① ライセンス講習会の開催

新たに筑波ライセンスの取得を希望する者に対し、ライセンス講習会を48回開催し、受講修了者に筑波サーキットライセンスを交付した。

再入会を含めたライセンス交付者の内訳は、4輪630名（対前年度比0.3%減）、2輪582名（対前年度比12.4%増）であった。

なお、48回開催のうち、リモートによるライセンス講習会は12回実施し、90名の参加があった。

② 筑波ライセンス会員の管理

筑波ライセンス会員等の更新や退会手続き、新規会員の入会手続き等会員に関する全般の対応および管理を行った。

なお、令和6年度末におけるライセンス所持者は、以下のとおり。

a. コース2000 (単位：人)

種 別	2 輪 車	4 輪 車	計
筑波ライセンス会員	2,412 (3.1%減)	1,720 (3.9%減)	4,132 (3.5%減)
ファミリー限定ライセンス会員	1,286 (0.5%増)	2,282 (5.2%減)	3,568 (3.2%減)
合 計	3,698 (1.9%減)	4,002 (4.7%減)	7,700 (3.4%減)

b. コース1000 (単位：人)

ミニバイクライセンス会員	2 輪車のみ	494 (11.8%減)
--------------	--------	--------------

() の％は対前年度比

③ 筑波ライセンス会員の走行の実施

筑波サーキットコース2000およびコース1000において、筑波ライセンス会員のスポーツ走行を行った。

(単位：台)

コース別	2 輪 車	4 輪 車	計
コース2000	28,299 (8.0%増)	11,379 (2.2%減)	39,678 (4.9%増)
コース1000	7,934 (15.2%増)	3,726 (9.1%減)	11,660 (6.2%増)

(2) オートスポーツ大会の開催事業

サーキット走行の理論および日頃の研鑽結果を発揮する場として2輪競技大会を開催するとともに、大会開催の告知をオートスポーツ愛好者等に広く行った。

大会の参加台数は1,471台(対前年度比3.7%減)、観客入場者数は30,700人(対前年度比4.8%増)であった。

① 全日本ロードレース選手権 1戦1日間

(筑波マイスタートロフィー併催)

② 筑波ロードレース選手権 5戦5日間

③ 筑波ツーリスト・トロフィー 2戦2日間

④ テイスト・オブ・ツクバ 2戦4日間

全日本ロードレース選手権開催の際には下妻市をはじめとした8つの近隣自治体からの後援を頂いた。

(3) オートスポーツの普及に関する広報事業

オートスポーツの面白さ、楽しさ及び筑波サーキットを多くの人々に紹介するための広報活動を行った。

① インターネットのホームページ

筑波サーキットの公式サイト（ホームページ）により、施設案内、レース及びイベントの開催情報、ライセンス会員募集案内、会員走行案内、コース貸切情報、動画配信、筑波サーキットの天気や路面状況などをWEBカメラによりリアルタイムに伝えるなど多くの情報を迅速かつ適切に提供を行った。

また、当財団が主催する2輪レースはYouTubeによるライブ配信を行い、迫力あるレースシーンを多くのファンに提供した。またXやフェイスブックによる情報提供などによりサービスの向上並びにオートスポーツの普及に努めた。

② 筑波ライセンス会員等への情報提供

スポーツ走行、ファミリー走行のスケジュール情報を随時更新するとともに、年間レースカレンダーを発行した。また、会員特典として主なレース観戦の優待割引を実施した。

③ 東京モーターサイクルショーでの広報活動

東京モーターサイクルショーは、令和7年3月28日～30日までの3日間、東京ビックサイトで開催された。来場者は3日間で約118,812人（前年比104.3%）であった。

本財団も日本モーターサイクルスポーツ協会（MFJ）と区画を共有し、筑波サーキット専用ブースを設けPRを行った。VRやハングオンなど体験型アトラクションを展開し、約3,200名がブースを訪れた。

(4) オートスポーツの安全思想啓発のための各種スクールの実施及び安全走行のための指導事業

オートスポーツを多くの人に安心して楽しんでもいただくために、サーキット走行の安全指導のためのスクールを開催した。

① 親子ミニバイク教室

オートバイの楽しさ面白さを体験しながら親子のコミュニケーションを図るために小学生とその親を対象とした「親子ミニバイク教室」を開催した。

開催内容は、初心者からステップアップできるよう、各自の技量によりクラス分けを行い、安全かつ楽しくバイクになじむとともに、技量の向上を目指した。参加者の多くに積極的にバイクに向きあう姿勢が見受けられ、多くの参加者に満足していただき、好評であった。開催回数6回（参加者57名）

② サーキットアドバイザーによる指導

2輪車のサーキット走行初心者である「ファミリー走行ビギナークラス」において、2輪車のロードレース大会での豊富な経験を有するサーキットアドバイザーにより、走行マナー、ルール、マシン点検などの説明を事前に行うとともに、実際の走行時には適宜並走を行うなど状況に応じたアドバイスを行い安全走行の啓発に努めた。

また、4輪の初心者を対象にしたアドバイザー制度も設け、2輪同様にアドバイスをを行い安全走行の啓発に努めた。

③ 体験走行会

サーキットへより一層の親近感を持ってもらうことを主眼に、自分の車両でサーキットを走行できる体験走行会を主催レース開催時に5回およびスポーツ走行開催日に9回実施した。

参加実績は、主催レース開催時、4輪78台（前年度88台）、2輪30台（前年度53台）。スポーツ走行開催日、4輪車151台（前年度118台）、2輪車65台（前年度79台）であった。

④ 4輪ドライビングスクールの開催

サーキット走行未経験者から本格的にサーキット走行を楽しみたい方を対象とし、プロのインストラクターによる指導・アドバイスを行いモータースポーツの楽しさを実感して頂ける「TOYOTA GAZOO Racing Driving experience」をトヨタ自動車（株）と連携し開催した。参加者は72名（前年度48名）であった。

2. その他の実施事業

(1) 施設の貸出に関する事業

① コース2000及びコース1000

従来と同様にロードレース大会、走行会、試乗会、テスト走行、高速運転訓練等のために貸出した。貸出時間数はコース2000 1,110時間（対前年度比5%減）、コース1000 1,579時間（対前年度比6.6%増）であった。

② ジムカーナ場

ジムカーナ愛好者による競技大会、練習会等のため貸出した。貸出時間数は2,398時間（対前年度比0.6%増）であった。

③ 500m競走路、整備工場及び宿泊棟の敷地

公益財団法人 JKA に賃貸した。

④ 体育館

公益財団法人 JKA 及び周辺住民のスポーツ活動や文化活動のために貸出した。

(2) 施設の整備に関する事業

① 事務所建て替え工事

平成8年に建設された旧事務所は、老朽化が著しく耐震性に懸念があるため建て替え工事を行った。

② 事務所脇トイレ建て替え工事

平成5年に建設されたが、老朽化が著しく衛生面の問題および頻発する排水故障を改善するため建て替え工事を行った。

③ コース1000防護柵設置工事

タイヤ脱輪によるピットロードへの飛び込み防止のため、最終コーナー立ち上がり付近からピットロード沿いに防護柵を設置した。

④ メインスタンド内トイレリフォーム工事

メインスタンド建設時からの古い施設であり老朽化の進行が著しいため、衛生面と使

い勝手向上を図るためリフォーム工事を行った。

⑤ コース２０００スタンド改修工事

メインスタンド、サブスタンドおよび最終コーナースタンドの全面塗装を行うとともにスタンド建設時に設置したベンチシートの取り換え工事を行った。

⑥ IP 電話の機器更新および構内ネットワークの再構築

耐用年数が過ぎ保守期限切れとなった IP 電話および電話交換機（PBX）の更新を行うとともに、利用用途の拡大が見込まれる通信環境の改善およびセキュリティ強化など、取り巻く変化に対応するため構内ネットワークを再構築した。

附 属 明 細 書

特に記載すべき重要な事項はありません。